

令和3年度 学校評価 最終評価

川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	担当部署	評価指標	達成度判断基準	備考	評価	取り組み状況	改善に向けて
I 組織的な学校運営	【学校教育ビジョンの具現化】 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画する。	総務部	【満足度指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現すべく組織的主体的に学校運営に参画している	組織的主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	教員アンケートで、「あてはまる」と「どちらか」の回答を合計すると100%であり、「あてはまる」>「どちらか」となったので、A判定とした。 学校経営方針(グランドデザイン)に沿った行事等の運営を行うため、目的やねらいを明確化するようにした。	学力向上ロードマップで一年の教育活動の流れに見通しを持ち、学校運営における自身の分掌の役割と、他の分掌との連携について認識を深める。 グランドデザイン・学校評価と自己評価カードとの関連を意識していく。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にしている。	総務部	【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」の大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切に、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	「あてはまる」と「どちらかといえば」の回答を合計すると100%であった。課題の時間外勤務時間は、1か月あたり49時間余(1学期)から41時間(2学期)に減少した。最終退勤時刻を明示するとともに、退勤時刻を意識した勤務を行うようにしている。備品や施設設備の整備充実を進め、業務改善や業務の標準化を意識しながら学校運営を行っている。	前例にとらわれることなく、教育効果を考えながら、行事等の教育活動を計画立案・実施していく。教育効果を見極め、縮減できるものはないか常に意識していく。 運営委員会の機能を強化し、各分掌が連携して教育活動全体を見通す場としていく。さらにSSSとの連携協働を進め、業務改善を進めていく。
II 確かな学力の育成	【学方向上】 単元のゴールやB規準の明確化、見通しに見える化を意識した授業づくり、朝学習における基礎的事項の習熟や活用力の学習指導に努め、基礎的基本的学力の充実、活用力の向上を図る。	教務部	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が充実し、活用力が向上している。	国語・算数の単元テストの平均点が88点以上であった学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	7月12月2月 単元テストの平均	C	国語・算数の単元テストの平均点が88点以上であった学年が4つの学年だった。単元テスト漢字のテストが弱いことと、読み取り問題の答え方が正しくないことが見られた。ただし、全体的な平均点は1学期より向上した。	漢字の定着がまだできていないので、朝ばつちりの時間などで繰り返し練習を行っていく。また、小テストを繰り返し行うことと家庭学習を徹底させることで、習熟を図っていく。読み取り問題の答え方について、全体で研修会を行い、学校全体で組織的に取り組んでいく。また、学習内容を定着させるための授業改善をさらに進めていく。
	【こたばの力を磨いて学びに向かう子の育成】 児童が主体的・対話的に学ぶ学習活動を推進し、深い学びにつながる指導法の向上を図る。	教育推進部	【満足度指標】 主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくりの取り組みを通して指導力が向上したと感じている。	学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感じる教員の割合が A 100% B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 教員アンケート	A	「児童が主体的対話的に学ぶ学校研究を実践することで、自身の指導力の向上につながっている」という項目に対して そう思う……………36% だいたいそう思う…64% 合計100%であった。	2学期は学校研究の重点を「課題の焦点化」に置き授業づくりを進めたことにより、教師がB規準を明確に持ち、単元のゴールとなるモデルを児童に示すことで、児童はゴールに向けて見通しを持って主体的に学習に取り組むことができた。学習形態の工夫や学びの自覚化に関しては、教員間でイメージの共有が十分図れなかった部分があるので、更なる研究を深めていきたい。
	【読書の量の向上】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。	教務部 (図書担当)	【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	おすすめの本の冊数 7月(2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	B	おすすめの本、児童の2学期のめあて達成状況は全校児童133人中117人で達成率は87.9%。教職員アンケートでは「おすすめの本の取り組みや図書館利用について働きかけている」の項目で そう思う…40%、だいたいそう思う…60% であった。 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をし、よく図書館利用を行っている。しかしまだ一部、読書への関心が低い児童もいる。	引き続き担任による声かけをしていく。また、図書委員による楽しい企画も準備し、多くの児童が読書意欲を高めるように働きかけたり、自分で本を読むことが難しい児童には、担任による読み聞かせをしたりするなどして、「おすすめの本」の達成率100%を目指す。
III 豊かな人間性の育成	【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 情報共有により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。いじめは小さな芽のうちに摘むと認識し、いじめを認知した時は組織的に迅速に対応する。	生徒指導部	【満足度指標】 児童が自己有用感を抱きながら、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートで、「学校は楽しい」と回答した児童の割合が、そう思う…62% だいたいそう思う…27% あわせて89%だった。 ・11月末にいじめアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。その後面談を行い、悩みや相談があった場合には管理職も含め組織的に対応した。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりでは、「児童一人一人を受け入れて価値付け、児童の人間性を認めるようにしている」に重点を置き、月末に振り返りをした。また、学期末にチェックシートで振り返ったことで、三機能を意識できるようになった。 ・異学年との交流を行ったり、全校行事を企画したりして、児童が楽しいと思う学校になるよう努めた。	継続していじめの未然防止、早期発見に努めていく。 三機能を生かした授業づくりは、重点化した項目を中心に、今後も取り組みを継続していく。 また、楽しい学校づくりにつながる取り組みを児童会や高学年中心に行っていく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、構造的な板書や発問、ふり返りの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	教務部 (道徳教育推進)	【満足度指標】 自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深めている。	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々 の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月2月 道徳アンケート	A	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が 低学年…92.3% 中学年…81.5% 高学年…97.4% 全校…90.4% ・自分の思いや考えをもつ時間を設定し、ペアやグループで話すことでより考えを広げたり深めたりすることができた。 ・視点を明確にしてふりかえりを書くことで、児童自身が学んだことをはっきりさせたり、教師が評価をする際の手立てとなったりした。	発問にこだわったり、児童一人一人の思いを大切にしたりしながら授業を行ってきている。今後も、構造的な板書やタイムマネジメント、ねらいを意識した授業構成になるよう授業改善に努めていきたい。 さらに生き方を考える道徳教育の充実を図るために、体験活動や特別活動、各教科等を関連付けながら教科横断的に道徳教育を推進していく。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに、児童会や委員会、学級会活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	生徒指導部	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートでよりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合が、そう思う…53% だいたいそう思う…32% あわせて85%だった。 ・あいさつ運動をはじめ各委員会が児童主体で考えた企画を行っている。 ・行事や企画後には、振り返りを行い、成長したことを確認した。 ・各学級で学級会を開き、目指す姿、授業について話し合い、実践したり、振り返ったりした。	それぞれの委員会児童が主体的に活動を行い、振り返りをする。また、達成感を自覚できるよう教職員全体で児童を認める場を増やしていく。 他学年に感謝の気持ちを伝えることで、達成感に満ちている。今後も継続したい。 今後も学級会で目指す姿、授業について振り返りを行い、クラスや学校の成長を感じられるようにする。
IV 健やかな体の育成	【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力アップ1校1プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	保健安全 ・体育部	【成果指標】 11月でのミニ体力テストにおいて長座体前屈の記録が県平均記録を上回る児童(4～6年生)が	11月でのミニ体力テストにおいて長座体前屈の記録が県平均記録を上回る児童(4～6年生)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	11月 ミニ体力テスト	A	11月にミニ体力テストを行い、長座体前屈の記録を測定した。R1年度の県平均及び全国平均を上回っており、ここ数年の柔軟性への取り組みの効果が表れている。	児童の柔軟性については概ね良好である。引き続き体育の授業を中心に、柔軟体操や後ろ反りを取り入れ、ミニ体力テストに合わせて、ストレッチ週間などを計画していく。また、新体力テストで課題の見られた力を、来年度の「体力アップ1校1プラン」の軸にし、取り組んでいく。
	【心身の健康】 心身ともに健康で元気に学校生活を送るために、スクールカウンセラー等の外部機関とも連携して、児童の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る。	保健安全 ・体育部	【満足度指標】 心身の健康に関する授業を通して、自他の良さに気づき、心身ともに健康で、元気に学校生活を送っている。	「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらか の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上	7月12月 児童アンケート	C	児童アンケートで「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、そう思う30%、だいたいそう思う40%、あわせて70%だった。 各クラスでの友達を認め合う活動、全校はたちば郵便の取り組みなどを行った。また、中間評価で否定的な回答が多かった高学年で、SC(スクールカウンセラー)をゲストティーチャーとし、「よりよい関係の築き方」などの授業を行った。	各学級や異学年の児童同士の良いところみつけをするなど、今後も継続してお互いの良さを認め合う活動を行っていく。また、高学年で特に自己肯定感が低い傾向があるため、行事などを通して児童の自己肯定感を高めることにつなげていく。また、教職員からも認めたり褒めたりする声かけをしていく。
V 家庭・地域との連携	【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育んでいき、地域を誇りに思える児童を育てる。	教務部	【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業や各教科におけるG Tとの授業や地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	特設授業やG Tとの学習で地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して将来の夢や目標を持ってたと感じた児童の割合が A 95%以上 (あてはまるくどちらか の場合はB) B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 児童アンケート	A	総合的な学習での聞き取りなどから「まちの先生との学習で将来の夢や目標を持って」と感じた児童の割合が98%だった。あてはまる62%、どちらかというあてはまる36%であてはまるの方が多いため、評価はAとした。	感染症が少しおさまってきたときに、外部の方に来ていただき特別授業をする機会を増やしていった。今後もコロナの感染状況を見ながら、機会をとらえて地域の方から学ぶことを続けていきたい。また、来年度に向けて、町の先生リストを作成したり、地域の方々をお呼びしやすくするための体制づくりを行っていきたい。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	生徒指導部	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んで明るいあいさつができる。	進んで明るいあいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらか の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	児童アンケートで進んで明るいあいさつをしていると回答した児童が、そう思う…49% だいたいそう思う…33% あわせて82%だった。 児童会によるあいさつ運動、児童会企画であいさつの取り組みを行った。	児童会が中心となってあいさつのよさを感じる取り組みを継続することで、児童があいさつがよくなってきたと自覚していた。しかし、他者目線で見るとできていないことが多い。教員が児童と明るいあいさつをしていくことで、児童へと波及させていきたい。

学校関係者評価委員からの御意見

- ・ 新型コロナウイルスの感染対策を含め、学校や先生方には本当のよく頑張っていたに感謝している。
- ・ 児童アンケートの「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」「学校の授業がよくわかる」の項目に低下が見られる。学校の問題や課題にどう対応し改善していくか、組織の力が試される時である。
- ・ 宿題をしている様子を見ると、「読む力」の低下を感じる。また、繰り返し学習によってつく力もあるのだが、繰り返し学習を避ける傾向が見られる。反復学習も大切にしていってほしい。
- ・ (「早寝・早起きチャレンジ」に家族で取り組み、その結果と学校医の助言を保健だよりで各家庭に発信した事を受け)「非行被害防止講座」の内容もとてもよかったですので、学習内容が常に目につくよう掲示し、生活習慣の改善に引き続き取り組んでほしい。
- ・ 「読み聞かせ」を担当が子どもたちとともに聞いてくださったってうれしかった。その教師の姿を子どもたちが見ている。